

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	教育 0-1
1. 産業技術学部	教育 1-1
2. 保健科学部	教育 2-1
3. 技術科学研究科	教育 3-1

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
産業技術学部	期待される水準を上回る	期待される水準を上回る	改善、向上している
保健科学部	期待される水準を上回る	期待される水準にある	質を維持している
技術科学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

産業技術学部

I	教育の水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 26 年度から聴覚障害者特別支援学校との高大連携を開始し、平成 26 年度及び平成 27 年度に出前講義や遠隔講義等を 21 校と連携して実施している。
- 特別支援委員会を設置し、聴覚障害以外の障害を併せ有する学生の教育支援体制を整備している。
- 教育プログラムの質保証及び質向上のため、学生の授業アンケートや学修ポートフォリオの導入を行っている。
- 学生の希望に基づく専門領域への配属を柔軟に行うため、平成 23 年度に従来の 10 コースを 6 領域へ改編している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 各分野で活躍する聴覚障害者が自身の経験等を語る「ろう者学ランチトーク」や障害者リーダー育成のための障害関係教養科目を開講している。また、聴覚障害学生の課題である言語力の向上を目指した日本語科目を開講している。
- 平成 22 年度から聴覚障害学生の教育に取り組む海外協定校への短期留学研修を実施し、1 年間当たり 10 名程度を派遣しているほか、平成 24 年度から複数回受講可能な特設科目「異文化コミュニケーション」を開講するなど、国際的に通用する人材の育成に取り組んでいる。
- つくば市の新任職員研修において、聴覚障害の当事者である学生が聴覚障害者対応講座を企画・実施しており、平成 27 年度の研修のアンケート結果では、参加者の約 58%が新任職員研修において最も役に立ったと回答している。

以上の状況等及び産業技術学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成 27 年度の二科展デザイン部門において入選するなど、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）の総合デザイン学科の学生による入選及び受賞の件数は 27 件となっている。
- 第 2 期中期目標期間の産業情報学科の学生による学会発表等の件数は平成 22 年度の 1 件から平成 27 年度の 3 件へ増加している。
- 学生アンケートの結果では、学生の授業に対する満足度について、肯定的な回答の割合は、平成 22 年度の 65.9%（一学期）及び 61.8%（二学期）から平成 27 年度の 72.5%（一学期）及び 74.3%（二学期）に増加している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 退職教員を就職支援員として配置し、個々の学生への就職指導を行った結果、第 2 期中期目標期間の就職率は平均 97.5%となっている。
- 第 2 期中期目標期間における進学者 16 名のうち大学院への進学者は 12 名となっている。
- 平成 27 年度に実施した卒業生の就職先へのアンケートの結果では、仕事に対する姿勢について肯定的な回答は 66%となっている。

以上の状況等及び産業技術学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度から聴覚障害者特別支援学校との高大連携を開始し、平成 26 年度及び平成 27 年度に出前講義や遠隔講義等を 21 校と連携して実施している。
- 特別支援委員会を設置し、聴覚障害以外の障害を併せ有する学生の教育支援体制を整備している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度の二科展デザイン部門において入選するなど、第 2 期中期目標期間の総合デザイン学科の学生による入選及び受賞の件数は 27 件となっている。
- 第 2 期中期目標期間の就職率は平均 97.5%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

保健科学部

I	教育の水準	教育 2-2
II	質の向上度	教育 2-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- アカデミック・アドバイザーとなる教員を学生3名から4名に1名の割合で配置し、学修だけでなく生活全般を支援する体制を構築している。
- 老人保健施設や市役所、企業等の外部組織との連携、海外の16の大学等との協定締結により、実践的、国際的な教育体制を整備している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 少人数でのアクティブ・ラーニングを積極的に採用するとともに、e-learningの学習コンテンツを提供しており、学生が主体的に学ぶための工夫をしている。
- 海外3大学との国際交流科目、欧州視覚障害学生サマーキャンプへの短期留学等、視覚障害学生に対するグローバル人材養成のための教育を実施している。
- 学会形式の発表会、症例報告、シミュレーター診察実習、早期体験実習等、それぞれの専攻が養成する人材に合わせた実践的な教育を行っている。

以上の状況等及び保健科学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の資格取得状況は、あんまマッサージ指圧師は63名（合格率94.0%）、はり師は55名（76.4%）、きゅう師は55名（76.4%）、理学療法士は36名（85.7%）となっている。
- 国際福祉機器コンテスト等の各種学術大会で学生が受賞している。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間中の就職率は約 90%となっている。専攻別では、鍼灸学専攻約 97%、情報システム学科約 95%、理学療法学専攻約 72%となっている。

以上の状況等及び保健科学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間においてアカデミック・アドバイザー教員制度とポートフォリオを新たに導入し、きめ細かな教育、学生支援を行っている。
- 東西統合医療センターにリハビリテーション科を開設し、理学療法学専攻学生の臨床能力向上に努めている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生が国際福祉機器コンテスト 2014 学生部門最優秀賞、LIFE2015 若手プレゼンテーション賞、バリアフリーシステム開発財団奨励賞、第 63 回全日本鍼灸学術大会の学生ポスター発表優秀賞等のコンテスト、学術大会で受賞している。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

技術科学研究科

I	教育の水準	教育 3-2
II	質の向上度	教育 3-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 障害に配慮した学習環境と少人数教育のため、学生定員を上回る教員を配置している。
- 入学者選抜試験では、志願者に対し指導を希望する教員との事前相談を行い、確実な研究計画を立案して臨むように指導している。
- 社会人の入学を促進するため、社会人入学者選抜試験の実施や授業料半額免除による経済的支援を実施している。また、仕事や育児等のために配慮が必要な学生に対し、3年を修了年限とした長期履修生制度を導入している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 指導教員及び副指導教員による個別指導体制を整備している。また、鍼灸学コースや理学療法学コースでは、講義と演習による複数科目の履修を修了要件として、専門性の高い講義科目の履修等により基礎・臨床医学に精通し、技術習得面で即戦力となる実践的な教育を行っている。
- 国際通用性のある教育の取組として、ロチェスター工科大学（米国）、ギャロデット大学（米国）等との国際交流による短期研修を実施している。

以上の状況等及び技術科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の学会発表を奨励しており、平成23年度から平成27年度の修了生29名の学会発表数は合計50件となっている。また、学会発表により、電子情報通信学会での優秀インタラクティブセッション発表賞（平成24年度及び平成25年度）、学会シンポジウム奨励賞（平成24年度）等を受賞している。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 23 年度から平成 27 年度までの就職率は、産業技術学専攻は 100%、保健科学専攻は 91.7%となっている。
- 修了生の主な就職先は、情報産業や建築産業等の開発現場、医療機関、教育機関等となっている。

以上の状況等及び技術科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 指導教員及び副指導教員による個別指導体制を整備している。また、鍼灸学コースや理学療法学コースでは、講義と演習による複数科目の履修を修了要件として、専門性の高い講義科目の履修等により基礎・臨床医学に精通し、技術習得面で即戦力となる実践的な教育を行っている。
- 国際通用性のある教育の取組として、ロチェスター工科大学、ギャローデット大学等との国際交流による短期研修を実施している。
- 東西統合医療センターに研究科専用の研究室を設置し、恒常的な実験研究が実施できる体制を整備している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生の学会発表を奨励し、平成23年度から平成27年度に修了生一人当たり平均1.7件の学会発表を行い、電子情報通信学会での優秀インタラクティブセッション発表賞等を受賞している。
- 企業向け大学説明会等で、在籍する学生の研究分野、研究内容に対応した企業等との情報交換や進路指導の結果、平成23年度から平成27年度の就職率は全体で92.0%となっており、修了生は当該研究科での教育を活かした専門職に就いている。

以上の第2期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果を勘案し、総合的に判定した。